（第２号様式）

令和５年４月 24 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立　　相模原中等教育学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・中高一貫教育の特色ある教育課程を策定し、知的好奇心を引き出し、高い学力と志を身に付けさせる。 ・探究学習を中心にカリキュラム・マネジメントを展開し、「自ら考え・調べる」姿勢を育成する。 ・主体的・対話的な深い学びの「深い学び」を重点研究し、言語活動の充実を図りながら科学的根拠に基づく理論的思考、表現力を育成する ・国際社会へ貢献できるよう英語運用力向上を目指す。	①４年の集約として新学習指導要領の手だてを整理する。 ②英語運用力の到達度を検証する。	①教科横断の視点と「思考・判断・表現」および「指導と評価の一体化」共通テーマとしてチームで研究を進める。 ②英検受験、合格率と GTEC スコア、および共通テスト平均点を４年分検証し、現状分析と目標を再設定する。	①研究成果と教科への還元はどうであったか。 ②データの作成と分析結果はどうであったか。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	・自主自律を推奨し、目標達成を諦めない精神力と規範意識、思いやりをもって下級生を指導するリーダー意識を醸成する。 ・６年間を安心して過ごせるよう生徒・保護者が利用しやすい教育相談体制を確立する。	①「継承と深化」に主体的に取り組ませる。 ②「心と体」をテーマに６年を貫いた指導体制を確立する。	①生徒による組織的改革を指導する。（継続） ②教科協働の視点で年次計画を作成し、振返りアンケートを実施する。	①改革案の実行はどうであったか。 ②実施内容と生徒評価はどうであったか。					
3	進路指導・支援	・５教科受験での国公立大学を推奨し、60名以上の現役合格者を目指す。諦めさせない進路指導により、国立大・難関大第一志望現役合格率75%を目指した段階的・体系的な支援・指導を行う。 ・高い志を維持させるため、実践・経験値を高めさせ、自己変容のプロセスを重視したキャリアプランニングを指導する。	①国公立のより迅速な受験結果の集約に向け DX を活用する。また、教育計画に係る進路実績の分析と指導体制を検証する。 ②主体的社会貢献としてのコンテスト参加を促し（継続）目指す生徒像の理解度の検証とコンテスト等参加状況を分析する。	①受験報告方法の見直しと国立大合格者数の推移と指導体制の変遷をまとめる。 ②検定やコンテスト参加数調査を継続する。参加経験のある生徒による募集説明会を実施する。	①教育計画目標（4年間の目標）に対する到達度はどうであったか。 ②SSS 振返りシートの経年検証結果と参加者数の検証					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域交流から社会貢献意識を醸成する。神奈川県を代表する中高一貫教育校としての魅力を発信し、6 年の学びの意欲を引き出す広報、開かれた学校づくりを推進する。	①校外活動を促し、地域交流の機会を模索する。 ②保護者目線、生徒目線の観点で学校案内を作成する。	①地域と連携した防災訓練を計画、実施する。 ②生徒のアイデアを生かした学校案内を作成する。	①交流参加状況はどうであったか。 ②どのようなアイデアを生かすことができたか。					
5	学校管理 学校運営	業務を組織的に可視化させ、効率向上から働き方改革を推進するとともに若手 OJT を推進する。地域から信頼されるため、職員一人ひとりが県職員としての自覚を持ち、事故防止意識を持って取り組む。	①帰宅しやすい環境づくりの継続と業務削減に取り組む。 ②同僚性の醸成に継続的に取り組み、不祥事防止の意識を高める。	①ノー会議デーや帰宅宣言カードの継続および「スクラップ提案書」を導入する。 ②教員による不祥事防止研修を継続する。生徒との適切な距離の取り方を重点目標とする。	①時間外勤務時間、年休取得数の検証 ②研修会は実施できたか。					